

佐久市辺地総合整備計画

平成27年度～平成31年度

平成 27 年 4 月

(第1次変更 平成28年3月)

佐 久 市

佐久市の概要

(地勢)

佐久市は、本州のほぼ中央、長野県の東部にあり、県下4つの平の1つである佐久平の中央に位置する日本で海から1番遠い都市です。

北に浅間山、南に八ヶ岳連峰を望み、蓼科山・双子岳・荒船山に囲まれ、千曲川が市の中央部を南北に貫流し、肥沃な耕地を形成しており、自然環境に恵まれた高原都市です。

当地域は、四方を山々に囲まれた盆地にあり、寒暖の差が大きく、また降水量が少ない典型的な内陸性気候を示す高燥冷涼地です。平年の平均気温は約10℃と低く、降水量は1,000mm弱と少なくなっています。また、日照時間は2,000時間を超えていて、日照時間が多い地域となっています。

(人口動態等)

平成22年の国勢調査によると、人口は100,552人、世帯数は37,032世帯で、県内第5位の人口規模を有しています。合計特殊出生率は、平成25年で1.57であり、全国の1.43、長野県の1.54を上回っています。

人口と世帯数を平成17年の国勢調査の数値と比較すると、人口の0.1%増加に対し、世帯数は4.7%の増加と高い数値を示しています。また、国勢調査による年齢3階層区分別人口を平成22年と平成17年とで比較すると、14歳以下では15.1%が14.3%となり、0.8ポイント減少、65歳以上では24.3%が25.9%となり、1.6ポイント増加しており、核家族化と少子高齢化が進んでいます。

(歴史)

佐久市は、古くは東山道、江戸期には中山道や甲州街道が通り、近年においては、北陸新幹線、上信越自動車道や中部横断自動車の高速度交通網が交わる交通の要衝となっています。

奈良・平安時代には「望月の駒」と称された馬を朝廷に献上していた牧があり、江戸時代には中山道の6つ宿場が置かれ、また五郎兵衛米で知られる五郎兵衛用水の開削や、日本に2つしかない星型の洋式城郭の龍岡城五稜郭も築城され、明治には日本最古の擬洋風学校の1つである旧中込学校が建設されています。

郷土芸能や伝統行事も伝承されていて、天下泰平と五穀豊穰を祝う神事で県無形民俗文化財に指定される「湯原神社式三番」、江戸時代から続く火祭りで奇祭として知られる「榊祭り」など、後世に受け継がれています。

(合併などの経過)

佐久市・臼田町・浅科村・望月町の4市町村の合併により、平成17年4月1日に新たな佐久市が誕生しました。

旧佐久市は、明治期の町村制施行によりできた14町村が、昭和に入り浅間町、野沢町、中込町、東村の4町村になり、同36年4月1日の合併により佐久市となりました。

旧臼田町は、明治期の4町村が、昭和30年に臼田町、田口青沼村、同32年4月1日の

合併により臼田町となりました。その後、同34年4月1日に大字平林のうち岩水を除く曾原・羽黒下・平林が佐久町へ境界変更しています。

旧浅科村は、明治期の中津村、五郎兵衛新田村、南御牧村の3村が、昭和30年1月15日の合併により浅科村となりました。

旧望月町は、明治期の6町村が昭和29年に4町村となり、同34年8月1日に本牧町、布施村、春日村、協和村の合併により望月町となりました。その後、同35年4月15日に大字茂田井の一部が立科町へ境界変更しています。

(産業構造)

就業別産業人口は、平成22年は、第1次産業が9.8%、第2次産業が31.1%、第3次産業が59.1%となっています。

平成17年と比較すると、第1次産業、第2次産業が減少し、第3次産業が増加しており、佐久平の市街地の発展と共に小売業を中心に第3次産業の割合が伸びています。

第1次産業の割合は減少傾向にありますが、市の基幹産業である農業は、米と野菜を特産としており、特に「五郎兵衛米」をはじめとした佐久の米は全国的にもその名を知られています。また、冷涼な気候を活用した高原野菜、日照時間の長さや昼夜の大きな気温差を利用した花卉や果樹も市場で高く評価されています。

(重点施策)

第一次佐久市総合計画では、以下の6項目を将来都市像の実現に向けた基本構想の柱として設定しています。

- ① たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥
- ② ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり
- ③ 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出
- ④ みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成
- ⑤ 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出
- ⑥ 市民生活の安全確保と市民満足度の向上

また、佐久市の発展のために重点的に推進すべき主要事業を「重点施策」として、以下の「5本の施策の柱」に体系化しています。この5本の施策の柱に該当する主要事業について集中的かつ重点的に取組を進めています。

- ・世界最高健康都市の構築
- ・安心安全な子育て支援
- ・地域経済の活性化
- ・交流人口の創出
- ・徹底した情報公開による市民参加型市政の実現

(地域指定)

辺地、過疎、山村振興、農業振興、農工導、低開発、特定農山村、都市計画

(財政状況)

平成25年度の普通会計の歳入総額は、対前年度比4.5%減の481億24百万円で、そのうち市税が123億1百万円（構成比25.6%）、地方交付税が129億1百万円（構成比26.8%）となっています。

歳出総額は、対前年度比5.3%減の467億17百万円で、そのうち人件費が64億45百万円（構成比13.8%）、普通建設事業費が91億84百万円（構成比19.7%）となっています。

主な財政指標は、次の表のとおりとなっています。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
経常収支比率	78.2	81.2	79.9
財政力指数	0.528	0.515	0.512
実質公債費比率	4.2	3.0	1.5

佐久市辺地対策事業の実施状況及び今後の整備方針

1 辺地の状況

辺地名	人口 (人)	高齢化率 (%)	面積 (km ²)	辺地度 点数	辺地対策事業債（百万円）					前計画時の辺地名
					平成22 年度	平成23 年度	平成24 年度	平成25 年度	平成26 年度	
東立科・美笹辺地	183	29.5	12.1	153						東立科・美笹辺地
黒田・大月辺地	164	37.8	17.6	117						黒田・大月辺地
苦水辺地	153	42.5	6.5	102						
東地辺地	194	47.4	15.3	100						
丸山・馬坂・ 広川原辺地	140	43.6	29.7	132	19.1	42.8	31.8	5.9	7.3	丸山・馬坂・ 広川原辺地
湯原新田・ 十二新田辺地	409	37.2	21.8	112	21.1	18.3	67.1	41.8	34.6	湯原新田・ 十二新田辺地
印内原・御牧原 (望月) 辺地	204	30.9	3.4	128						印内原・御牧原 (望月) 辺地
協西・合の沢・ 大木・長者原・ 春日西久保・ 春日東久保辺地	1,498	37.9	89.8	112						協西・合の沢・ 大木・長者原・ 春日西久保・ 春日東久保辺地
計 8 辺地	2,945	37.9	196	956	40.2	61.1	98.9	47.7	41.9	

2 これまでの辺地対策事業の実施状況

(1) 前の計画期間中に行った辺地対策事業の実施状況

辺地地区は、他地域に比べ生活環境、社会環境の整備が遅れおり、通行の利便性、安全性やアクセスの確保を図るための道路2路線と橋梁1橋の整備、林業の振興と森林開発を図るための林道1路線の整備を行いました。

(2) 前の計画期間中に行った事業の成果

辺地地域における道路及び橋梁整備を行ったことにより、住民の通行の利便性や交通の安全性が高まり、市の中心部等へのアクセスも容易になっています。また、辺地地域内にある運動施設などの公共施設や観光施設へのバス等の通行も容易になり、資源の有効な活用による地域活性化にも寄与できました。

林道については、林道開設等の整備を行ったことで、森林開発に活用され、林業の振興が図られています。

3 今後の辺地の考え方及び整備方針

(1) 前計画との変更点

苦水地区及び東地地区が新たに辺地の要件を満たすことになったため、前計画の6辺地から2辺地を追加し8辺地とします。

(2) 辺地対策の考え方

辺地地区については、他地域に比べ生活環境、社会環境の整備が遅れていることから、生活文化水準の格差是正を図ることを第一義の目的としますが、地域コミュニティの維持確保と交流人口・定住人口創出による活性化も視野に入れて対策を講じることとします。

その際には、各辺地地区がそれぞれの目的に限定した事業を行うのではなく、各地区の伝統や文化、ヒトやモノといった資源を有効にリンクし、また辺地地区外の資源活用による相乗効果も視野に入れ、より高い効果が発揮できる視点を取り入れることとします。

(3) 整備方針

本市内の辺地地区は、急峻な個所が多く、地区と主要な道路を結ぶ幹線道路の幅員も狭いため、バスや緊急車両等の通行に支障を来しています。また、小型動力ポンプ付積載車等の消防施設が老朽化している地区があり、火災や大雨等の万一の災害時に備え、安全で安心な生活を送ることに対して不安感があります。

このため、道路や林道の整備を行うことにより、道路交通網を整備し、バスや緊急車両等の運行を容易にするとともに、老朽化した小型動力ポンプ付積載車等の消防施設の更新により、住民の安全で安心な生活を確保する必要があります。これら地区内の生活機能を整備することにより、高齢化が著しい地域住民の生活の質の向上と安全を図ります。

辺地地区内には、運動施設や宿泊が可能な公共施設があり、水と緑が織りなす豊かな自然環境もあります。森林開発による林業の振興のみならず、山林と観光資源を結び、また農林業体験や田舎暮らし体験などを行えるよう、癒しと潤いを活用した地域の活性化を図ります。

総合整備計画書

長野県佐久市黒田・大月辺地
 辺地の人口164人：面積17.6km²

1 辺地の概況

- (1) 辺地を構成する町又は字の名称 黒田、大月
- (2) 辺地の中心の位置 佐久市内山739番地1
- (3) 辺地度数 117点

2 公共的施設の整備を必要とする事情

本辺地地区は、佐久市の東に位置し、市役所から約12.9km離れた山村地区です。

○小型動力ポンプ

本辺地内の黒田地区及び大月地区には、それぞれ小型動力ポンプが配備されていますが、配備後20年余りが経過しており、経年劣化により、火災等の万一の災害時の使用に支障を来すおそれがあります。

このため、計画的に小型動力ポンプの更新を行い、災害時に迅速かつ確実に対応することができる体制を整え、地域住民の安全で安心な生活環境の確保を図ります。

3 公共施設の整備計画

平成27年度から平成31年度まで5年間

(単位：千円)

施設名	事業主体名	事業費	財源内訳		一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額
			特定財源	一般財源	
小型動力ポンプ(黒田・大月)	佐久市	3,292		3,292	3,200
合計		3,292		3,292	3,200

総合整備計画書

長野県佐久市東地辺地
 辺地の人口194人：面積15.3km²

1 辺地の概況

- (1) 辺地を構成する町又は字の名称 東地
- (2) 辺地の中心の位置 佐久市香坂1144番地
- (3) 辺地度数 100点

2 公共的施設の整備を必要とする事情

本辺地地区は、佐久市の北東に位置し、市役所から約10.8km離れた山村地区です。

○小型動力ポンプ付積載車

本辺地地区には、小型動力ポンプ付積載車が配備されていますが、配備後20年余りが経過しており、経年劣化により、火災等の万一の災害時の使用に支障を来すおそれがあります。

このため、計画的に小型動力ポンプ付積載車の更新を行い、災害時に迅速かつ確実に対応することができる体制を整え、地域住民の安全で安心な生活環境の確保を図ります。

3 公共施設の整備計画

平成27年度から平成31年度まで5年間

(単位：千円)

施設名	事業主体名	事業費	財源内訳		一般財源のうち ち辺地対策事業 債の予定額
			特定財源	一般財源	
小型動力ポンプ付 積載車（東地）	佐久市	5,088		5,088	5,000
合計		5,088		5,088	5,000

総 合 整 備 計 画 書

長野県佐久市丸山・馬坂・広川原辺地
 辺地の人口140人：面積29.7k㎡

1 辺地の概況

- (1) 辺地を構成する町又は字の名称 丸山、馬坂、広川原
- (2) 辺地の中心の位置 佐久市田口523番地3
- (3) 辺地度数 132点

2 公共的施設の整備を必要とする事情

本辺地地区は、佐久市の南東に位置し、市役所から約10.6km離れた山村地区です。

○広域基幹林道田口十石峠線

当地域は、以前は農林業が主体で、昭和20年代からカラマツの植林が盛んに行われていましたが、近年サラリーマンが増え、農林地の荒廃が進んでいます。

このため、集落間を結ぶ林道開設等を行い、森林資源の除間伐の促進及び森林整備の効率化と有効利用による林業の振興を図るとともに、森林開発によって、交流人口の創出と地域経済の活性化を図ります。また、通行の利便と災害時の迂回路を確保することにより、生活環境の向上も図ります。

3 公共施設の整備計画

平成27年度から平成31年度まで5年間

(単位：千円)

施設名	事業主体名	事業費	財源内訳		一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額
			特定財源	一般財源	
広域基幹林道田口 十石峠線	長野県	25,060		25,060	24,900
合計		25,060		25,060	24,900

総合整備計画書

長野県佐久市湯原新田・十二新田辺地
 辺地の人口396人：面積21.8km²

1 辺地の概況

- (1) 辺地を構成する町又は字の名称 湯原新田、十二新田
- (2) 辺地の中心の位置 佐久市上小田切1304番地
- (3) 辺地度数 112点

2 公共的施設の整備を必要とする事情

本辺地地区は、佐久市の南に位置し、市役所から約11.6km離れた山村地区です。

○市道U718号線

本道路は、本辺地内の湯原新田地区に通じる基幹道路であり、多目的に活用できるグラウンド等や宿泊棟などが整備されている市の総合運動公園、天体観測施設へのアクセス道路です。また、本辺地に隣接する大沢地区を通る県道百沢臼田線から本地区にある公共施設へのアクセス道路でもあります。

本道路は、幅員が狭く舗装もされていないため通行に支障があり、また隣接する大沢地区にある財産区では、企業等と提携し、県外都市住民による体験交流型観光の実現を目指し、本辺地内にある公共施設や観光農園の活用を計画していますが、アクセスが確保できない状態にあります。

本道路の拡幅等の改良整備を行い、地域住民の利便性を高めるとともに、交流人口の創出による地域資源の有効活用と地域振興を図ります。

○市道54-6号線

本道路は、本辺地内の平地区及び湯原新田地区に通じる基幹道路であり、先行して整備を行っている市道U718号線に接続し、市の総合運動公園、天体観測施設へのアクセス道路です。

本道路は、損傷及び老朽化が進み、通行に支障が生じている状態にあるため、改良を行い、市道U718号線と路線を一体化し、地域住民の利便性を高めるとともに、交流人口の創出による地域資源の有効活用と地域振興を図ります。

3 公共施設の整備計画

平成27年度から平成31年度まで5年間

(単位：千円)

施設名	事業主体名	事業費	財源内訳		一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額
			特定財源	一般財源	
市道U718号線 拡幅改良	佐久市	66,228	26,800	39,428	39,400
市道54-6号線 改良	佐久市	24,000	0	24,000	23,600
合計		90,228	26,800	63,428	63,000